

都民のAIに関する意識調査(概要版)

＜令和8年2月 デジタルサービス局＞

調査概要

調査項目（全29問）

- AIを含むデジタルの利用状況
- AIに対するイメージと価値観
- 情報リテラシーに関すること
- AIリテラシー向上施策に対する希望
- 行政サービスにおけるAI活用の受容度
- AI利用と将来展望

対象・方法等

対象・規模：都内に在住する15歳以上の男女（10,082人）

調査方法：インターネット調査、郵送調査及び対面調査

調査期間：令和7年11月～令和8年1月

性別・年齢（Q1、Q2）

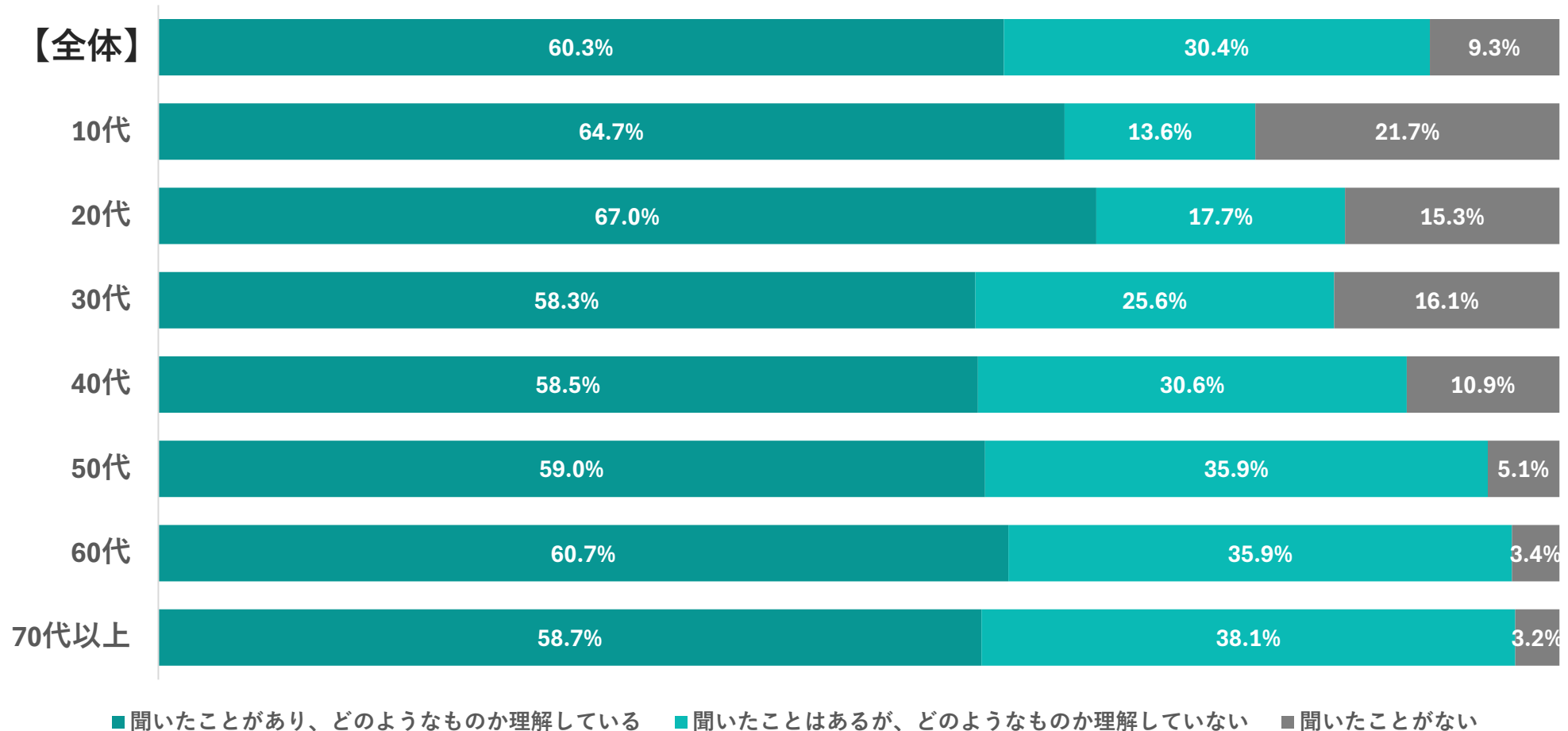
(Q1:性別)		回答数	%
全体		10,082	100.0
1	男性	5,038	50.0
2	女性	4,927	48.9
3	その他	31	0.3
4	回答しない	86	0.9

(Q2:年齢)		回答数	%
全体		10,082	100.0
1	19歳以下	470	4.7
2	20～29歳	1,398	13.9
3	30～39歳	1,480	14.7
4	40～49歳	1,660	16.5
5	50～59歳	1,798	17.8
6	60～69歳	1,213	12.0
7	70歳以上	2,063	20.5

都民のAIの認知度・理解度について（Q9）

○ AI（人工知能）の認知度は約9割、理解度は約6割

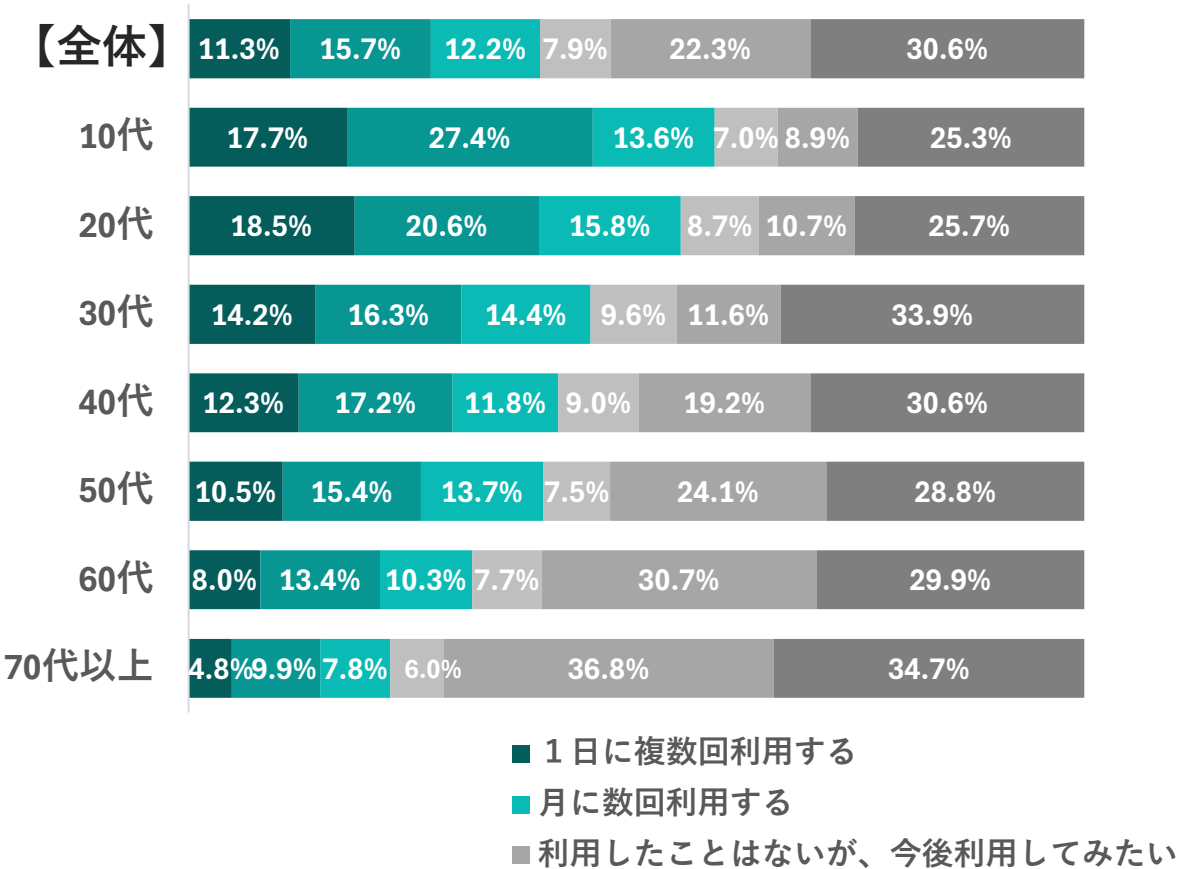
Q9：あなたは「AI（人工知能）」という言葉聞いたことがありますか？



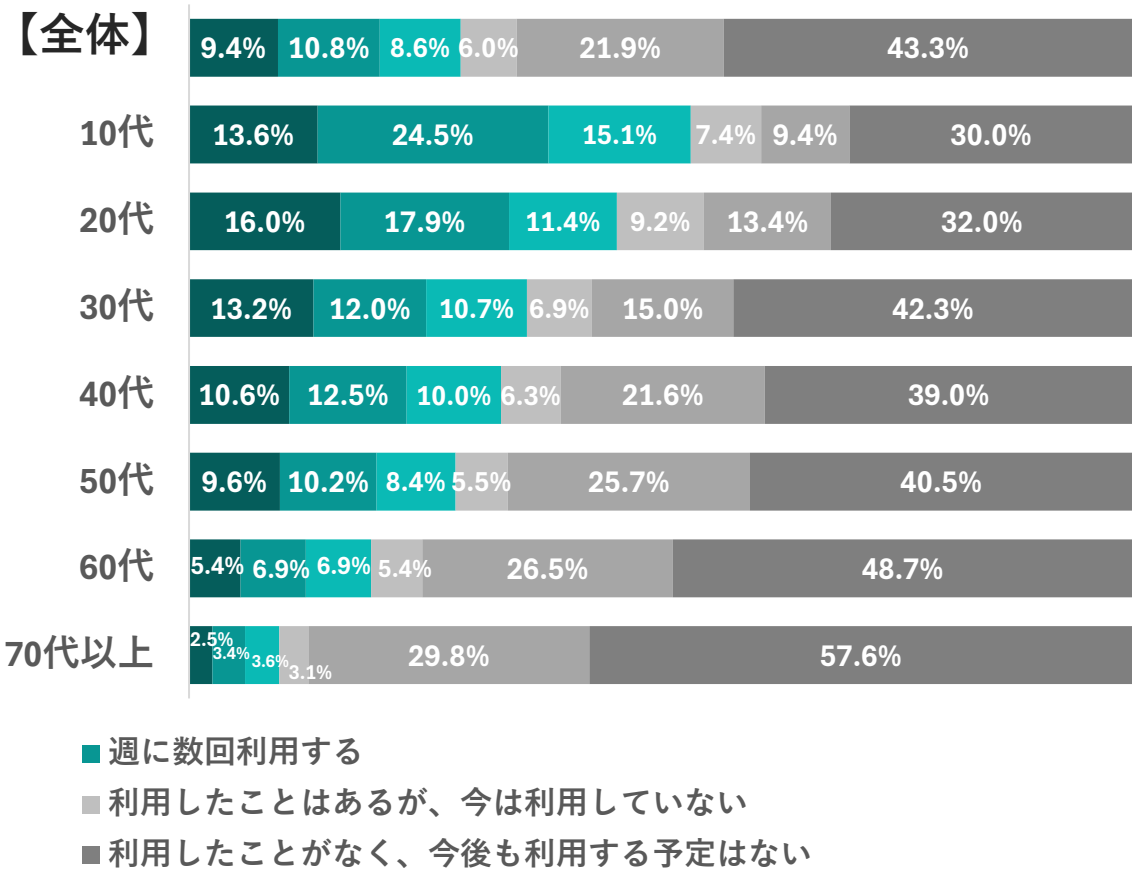
都民のAI利用状況について（Q10、Q11）

○ AIの利用頻度は、月に複数回以上、私的に利用する方が4割・業務で利用する方が3割

Q10 あなたはプライベートで「AI」を利用したことがありますか？



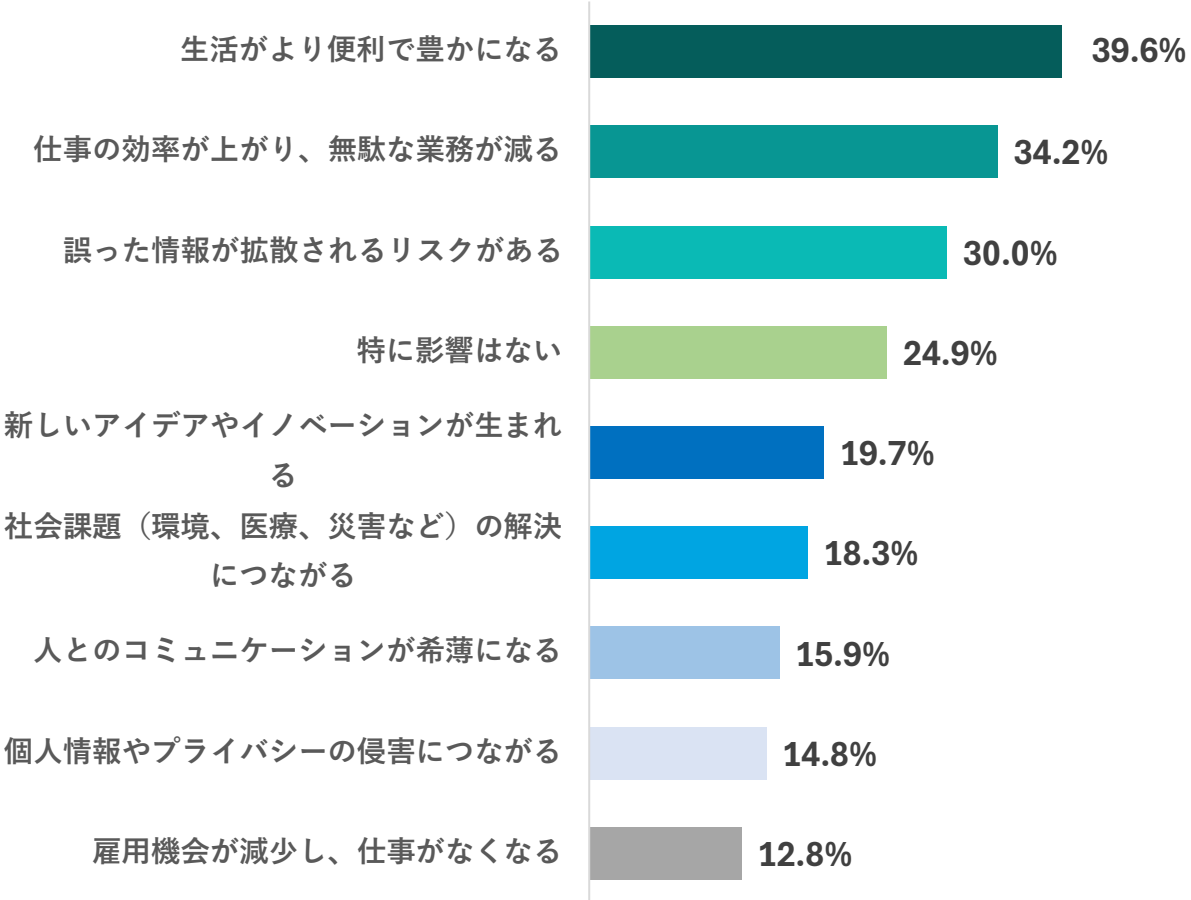
Q11 あなたは仕事や学業で「AI」を利用したことがありますか？



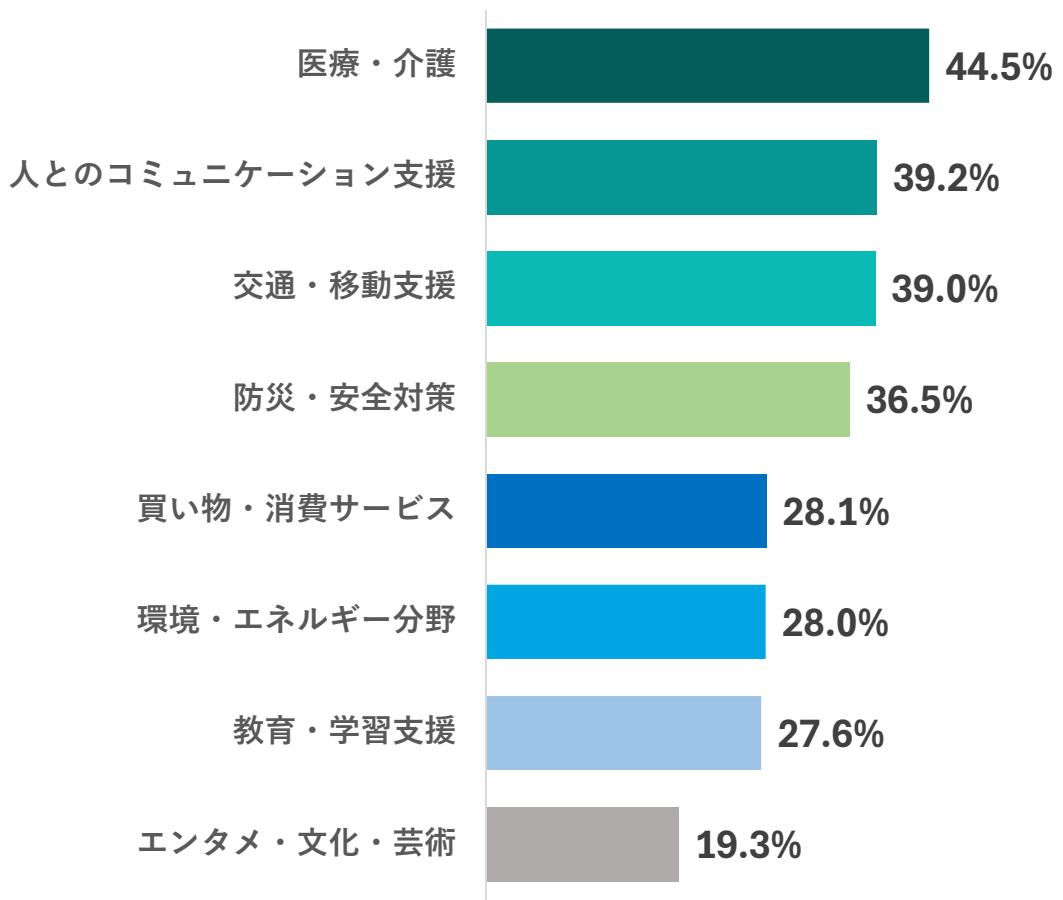
AIへのイメージや期待について（Q14、Q29）

- AIに対して、「生活が便利になる」「効率化」などポジティブ評価が多いが、ネガティブ評価（「誤情報拡散」「コミュニケーションの希薄化」など）も一定の割合
- AIに期待する分野は「医療・介護」、「コミュニケーション」、「交通・移動」などが高い

Q14 「AI」はあなたの生活や社会にどのような影響を与えますか？（複数選択）



Q29 あなたは将来どのような分野で「AI」を使ったサービスが使われることを期待しますか？（複数選択）



情報の真偽を確かめるための行動について（Q20）

○ インターネットやSNSからの情報の真偽確認は、3人に1人が「特に何も行動しない」と回答

Q20 あなたはインターネットやSNSなどから流れてくる情報の真偽を確かめるためにどのような行動をしますか？（複数選択）

複数の異なる情報源（メディア）と比較する



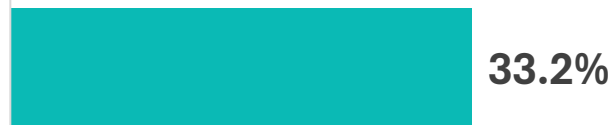
44.7%

情報の発信元（企業や団体）の信頼性を確認する



36.7%

特に何も行動しない



33.2%

情報が最新か確認する

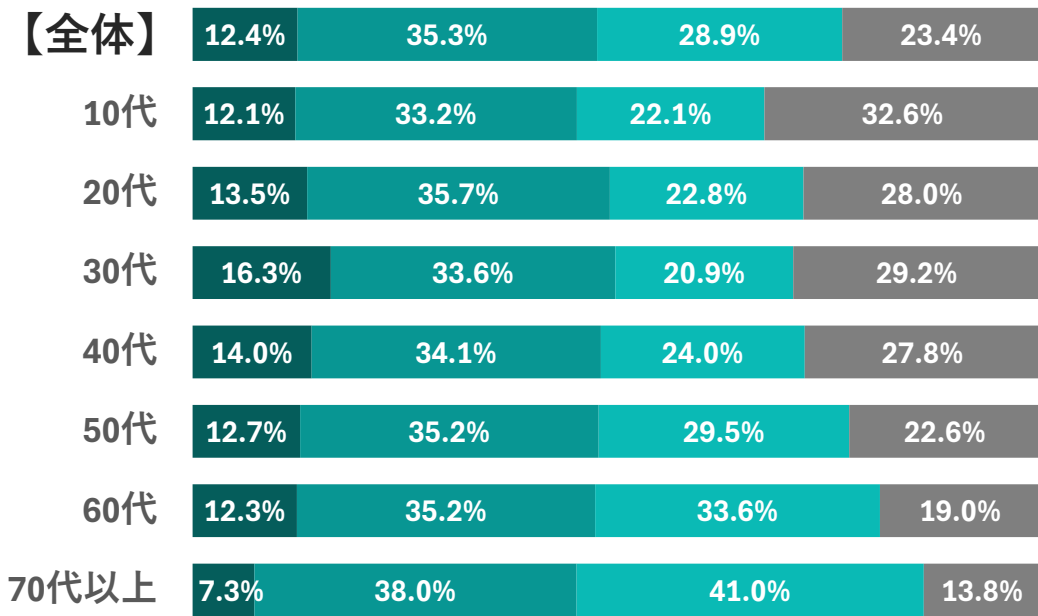


23.7%

行政サービスにおけるAI活用の受容度について（Q25, Q26）

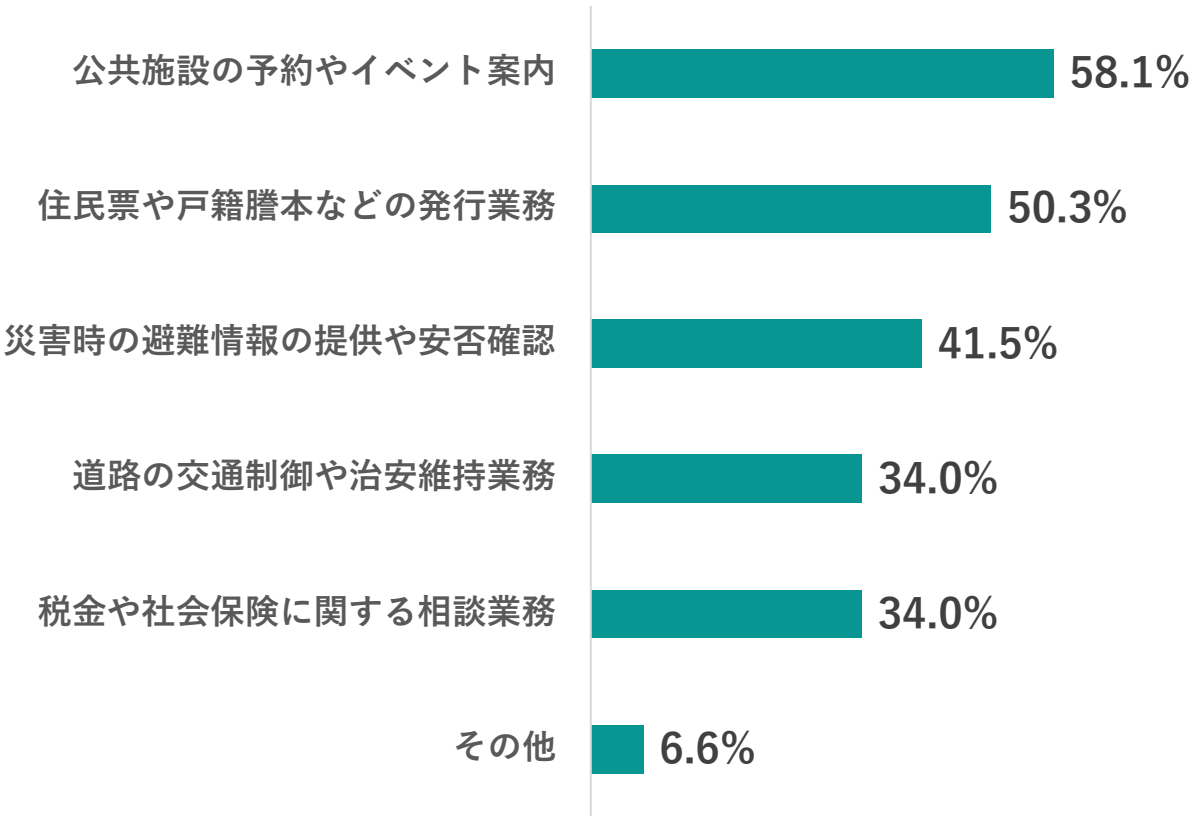
- AIを補助的に使うことも含めると**全体の8割弱が肯定的**
- 活用を期待する分野では、**公共施設予約や住民票等申請書類に関することが上位**

Q25 あなたは行政サービス(区役所・市役所等の窓口業務、各種申請手続など)に「AI」が利用されることをどの程度許容できますか？



- AIが人間の代わりに行動してもよい
- AIが収集した情報をもとに、人間が最終的に判断してほしい
- AIは補助的な役割に留め、人間が対応してほしい
- AIは利用してほしくない

Q26 あなたはどのような行政サービスであれば「AI」が担当してもよいと思いますか？（複数選択）



都民のAIに関する意識調査（設問一覧）

（０）基本属性（Q1～Q4）

- Q1 あなたの性別をお聞かせください。
- Q2 あなたの年齢をお聞かせください。
- Q3 あなたの現在の職業について、最も当てはまるものをお選びください。
- Q4 現在、同居しているご家族について、当てはまるものをすべてお選びください。

（１）AIを含むデジタルの利用状況（Q5～Q13）

- Q5 あなたは普段、インターネットをどのような機器で利用していますか？
- Q6 あなたはインターネットをどのくらいの頻度で利用しますか？
- Q7 あなたは日常の情報収集に主にどのツールやサービスを利用しますか？
- Q8 あなたは以下の媒体から得られる情報に関する信頼度についてどう考えていますか？
- Q9 あなたは「AI（人工知能）」という言葉聞いたことがありますか？
- Q10 あなたはプライベートで「AI」を利用したことがありますか？
- Q11 あなたは仕事や学業で「AI」を利用したことがありますか？
- Q12 あなたが「AI」を使う主な目的・理由は何ですか？
- Q13 あなたが「AI」を利用しない理由は何ですか？

（２）AIに対するイメージと価値観（Q14～Q19）

- Q14 「AI」はあなたの生活や社会にどのような影響を与えますか？
- Q15 「AI」と人間を比較した場合、AIはどのような存在だと思いますか？
- Q16 あなたは、どのようなAIサービスに最も期待しますか？
- Q17 あなたは、自分の個人情報（氏名、住所、連絡先など）や行動履歴が「AI」の学習に利用されることをどのように感じますか？
- Q18 あなたは「AI」が生成した情報（画像、動画、音楽、文章など）に、AIが作成したものであることを示す表記は必要だと思いますか？
- Q19 あなたが「AI」を活用したサービスを利用する際に、最も重視する点は何ですか？

（３）情報リテラシーに関すること（Q20～Q21）

- Q20 あなたはインターネットやSNSなどから流れてくる情報の真偽を確かめるためにどのような行動をしますか？
- Q21 あなたはインターネットやSNSなどから流れて来る情報を見てその内容が気になったとき、ほかの人にどのような手段で伝えようと思いますか？

（４）AIリテラシー向上施策に対する希望（Q22～Q24）

- Q22 あなたが「AI」について学ぶ機会があるとすれば、どのような知識を得たいと思いますか？
- Q23 あなたが「AI」について学ぶ機会があるとすれば、どのような方法を希望しますか？
- Q24 あなたはAIリテラシー向上のために、東京都にどのような施策を期待しますか？

（５）行政サービスにおけるAI活用の受容度（Q25～Q27）

- Q25 あなたは行政サービス(区役所・市役所等の窓口業務、各種申請手続など)に「AI」が利用されることをどの程度許容できますか？
- Q26 あなたはどのような行政サービスであれば「AI」が担当してもよいと思いますか？
- Q27 あなたが行政サービスで「AI」を利用してほしくない理由は何ですか？

（６）AI利用と将来展望（Q28～Q29）

- Q28 あなたは将来、「AI」がより身近になることで、生活や仕事がどのように変化すると想像しますか？
- Q29 あなたは将来どのような分野で「AI」を使ったサービスが使われることを期待しますか？